



社会福祉法人 長野県社会福祉協議会

「福祉だより信州」は共同募金の
配分金で発行されています。

昭和27年1月11日
第三種郵便物認可第768号
令和元年8月25日発行
(毎月25日発行)

福祉だより 信州

No.
768
2019 9月号

よっ!
新風人



CONTENTS

みんなで取り組む地域共生・信州	2
福祉保険サービス広告	5
県社協情報局	6
おらほの縁パワー活動!・おらほの資金確保術!	7
よっ!新風人・ざわめくアート	8

ふっころ
長野県社会福祉協議会
公益キャラクター

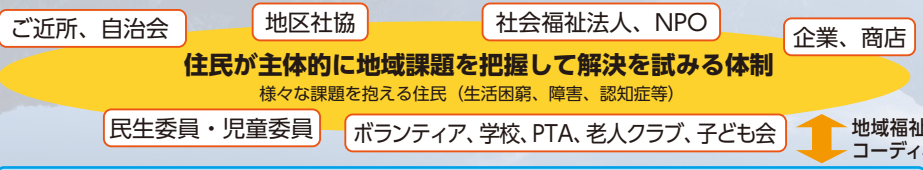
共生の地域づくりのために

～地域共生社会推進検討会 中間とりまとめをふまえて～

「地域共生社会」の実現に向けた地域づくりの強化のための取組の推進

(1) 地域力強化推進

住民に身近な圏域
市町村域等



地域における他分野

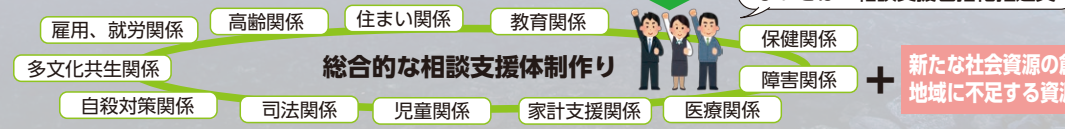
まちおこし、産業、農林水産、土木、防犯・防災、環境、社会教育、交通、都市計画

住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりを支援

- [1] 地域福祉を推進するために必要な環境の整備（他人事を「我が事」に変えていくような働きかけ）
- [2] 地域の課題を包括的に受け止める場



(2) 多機関の協働による包括的支援体制構築



「中間とりまとめから」
地域共生社会推進の方向性を考える

地域共生社会の実現に向けて改正社会福祉法では、地域福祉の推進の理念を「支援を必要とする住民（世帯）が抱える多様な複合的な地域生活課題について、住民や福祉関係者による①把握及び②関係機関との連携等による解決が図られることを目指す」としています。さらに、その実現のために、市町村が包括的支援体制づくりに努める旨を規定しています。

包括的支援体制の全国的整備に向けて設置された「地域共生社会推進検討会」では、令和元年7月に検討内容を中間とりまとめとして公開しました。

断らない相談支援の実現がポイント

中間とりまとめでは、包括的な支援体制として、「断らない相談支援」「参加支援（社会とのつながりや参加の支援）」「地域やコミュニティにおけるケア・支え合う関係性の育成支援」の3つの支援機能を一体的に取り組むことが必要としています。

そして、断らない相談支援の機能を、

「住民に身近な圏域において、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり」と、「市町村圏域において、地域住民が把握した地域課題のうち複合化・複雑化した課題に対応できる、多機関の協働による包括的な相談支援体制づくり」としています。

前段は地域の福祉力を高めていくこととあり、地域福祉を支えるコーディネーターの役割が重要になります。住民の生活上の課題を、地域の生活課題として住民自身が我が事として捉え、主体的に自分たちの地域の課題解決にあたっていくことができるようプロセスを支えます。

後段は包括的支援体制の構築です。8050問題をはじめとした福祉ニーズの多様化・複雑化に対し、高齢・障がい・子どもなど専門支援機関の連携のみならず、就労支援や司法関係など「くらし」と「しごと」全般に及ぶ多様な相談支援機関の連携が必要です。

一方、連携の必要性は分かっていますが、どこが声をかけるのか役割分担が決まらず連携不足に陥るケースが多く聞かれます。この協働の中核を担う機能として、生活困窮者自立支援制度のまいさばや国の地域共生社会推進モデル事業にて配置された相談支援包括化推進員の機能が必要になってきます。

地域共生社会推進事業
【上伊那圏域】

県社会福祉協議会では、今年度、上伊那圏域の町村部をモデル地域として包括的支援体制づくりに取り組んでいます。配置された相談支援包括化推進員が、まいさぼ上伊那や各町村の地域福祉のコーディネーターと連携し、制度の狭間や課題が、複合化・複雑化したケースの支援調整や、個別支援から派生する新たな社会資源・仕組みの創出の検討を行っています。

参加支援
～社会とのつながりや参加の支援～

箕輪町社会福祉協議会
地域福祉コーディネーター 西澤智美 氏

「全くつながりのない人は存在しない」と考え、とにかくアセスメントを重視し、本人からいろいろな経験や体験を聴くことを心掛けています。過去・現在・未来の人生軸は人それぞれ違うことを意識し、支援者がどこにつなげたいかではなく、本人がどこにつなりたいのかを聞くことがポイントです。

衣・食・住・医療など生命に関わる部分は、本人の気持ちに寄り添いスピーディーな対応をするためにも、行政や医療福祉関係者、食糧支援団体等としっかり協働していきます。

近隣住民の巻き込み方も重要です。地域の方へは本人の困りごとを伝えるだけでなく、近況報告を行うことで本人を知ってもらうことから始めます。そして、つながることで双方にメリットがあるように提案していきます。また、つながった人とも定期的にコンタクトを取ることで、つながりの継続支援を行います。

本人自らが地域とつながり、参加の体験を重ねると、支援者が間に入ることや後押しがなくても良くなります。自らできた体験は大きな経験となり、その後の本人の意欲向上や参加の拡大につながります。成功経験により本人が支援から離れていくこともあります。上手くいかなくなる時期もあるので、支援を終了するのではなく、皆で気にし続けている必要があります。その中で、地域に一つでも多くのつながりができていくことが、地域の力を上げることにもなると思います。

地域やコミュニティにおけるケア、
支え合う関係性の育成支援などの地域づくり

宮田村社会福祉協議会
地域支え合い推進員 黒沢香菜 氏

介護保険の生活支援体制整備事業を活用して、地域のお宝探しを継続的に行っています。お祭り、趣味やスポーツの集まり、地域性でもある農業を中心としたつながりの他、高齢者クラブや若妻会といった活動だけでなく、暮らしの中にある支え合いを**発見**することを大切にしています。日常のあいさつ、回覧板を回すときの一声、散歩をしながら・散歩をしている人を見ながらの見守りなど、大事な支え合いが地域にはたくさんあり、こうした支え合いを**評価**する仕組みづくりに取り組んでいます。

1つは、毎年2月に村との共催で開催する『地域のお宝大発表会』。バリエーションに富んだ活動を紹介することで、それぞれが際立つように**演出**をしています。そして、支え合いの意味を伝えることで「これって支え合いなんだ」と暮らしの中にあるものへの関心が高まります。他にも『むらのお宝通信 みやくみやく』を定期発行して、地域の取り組みの**発信**もしています。

住民、専門職がどうやってつながりを作っていけるかについては**学習**を中心に置いています。専門職は“深める”を視点とした検討会を、住民は“広げる”を視点とした学習会を開催しています。そして、暮らしと制度・サービスが結びつく『向こう3軒両隣の支え合い』を目指しています。

今後の展開に向けて

個人や世帯が地域やコミュニティとのつながりを回復するために、専門職等が伴走しながらつなぎ戻し、参加を支援していく「包摂」の観点と、地域やコミュニティにおける多様なつながりが生まれやすくなるための環境整備を行う観点の双方が必要です。2020年代初頭とされる地域共生社会推進施策の全国展開に向けて、福祉の地域づくりとともに、地方創生やまちづくりなど他分野との連携が期待されています。

令和時代における

生活困窮者支援の展開について

社会活動家・東京大学先端科学技術研究センター特任教授

全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長 湯浅誠氏

困窮者支援は地域づくりである



日本は今、社会の担い手だった「若くて健康な日本人男性」がどんどん減っています。「若くて健康

な日本人男性」は代替のきく真四角な顔で、みんながそのふりをしていただけ、それができなくなってきました。だから、みんなが参加して支え合うことをしないと、地域社会は生き残れないからつながりの工夫をしましょうと、10年以上前から言われてきました。

生身の人間は真四角ではなく、それぞれ凸凹で面倒です。個々の制度は凸凹のピースを重ねる工夫ですが、制度だけでは一つのピースははまらないので、この間をつなぐ粘土みたいなものが要ります。

私があることを痛感したのは、障がいのある兄が入院した時、母親が心労で要介護になってしまったときでした。兄の面会には私が母に付き添い車で送迎

していましたが、私も仕事があります。そのとき母親に寄り添ってくださった方がご近所のお友達、IさんとTさんでした。母の話し相手になり、車で病院に連れて行ってくれる。その方たちは一地域住民です。その人たちがいてはじめて、私たち家族がなんとかつなげたのです。

凸凹をつなぐ「名も無き支援」

少し前に「名も無き家事」という言葉が話題になりましたが支援も同じです。専門職の仕事、介護・医療サービスといった「名のある支援」は、凸凹の間をつなぐ粘土のような「名も無き支援」がないとまわりません。

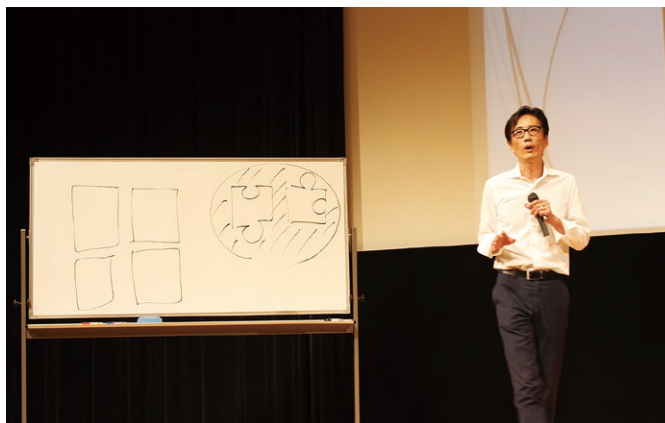
地域の方がこの役割の担い手なので、この粘土部分をうまく配置するために、そういう人を見つけ、つくっていくことが「地域づくり」です。

私の母にとつてのIさんとTさんのような地域でちょっと支えられる人がいる。寄り添い、伴走する「名も無き支援」があって、人は頑張ることができる。私

はそのことを「地域的養護」と言っています。

多様なつながりの場づくりを

地域にはそんな担い手はいないという人がいたら、「本当にいないのかな？」と3回自分自身に問うて下さい。子ども食堂はこの1年で1400か所増えました。そう考えると、担い手がいないわけじゃない。見えていないだけかもしれない。地域には役割を担おうという人たちはたくさんいて、そんな人たちが出会い、知り合う接点、場所が必要です。それは例えば子ども食堂やバーベキュー大会でもいい。対象が限定されず、いつも決まっ



凸凹と名も無き支援を図を用いて説明

た顔ぶれにならないような場をつくれば、そこから道で会ったら声をかけ合うようなつながりが生まれ、なにかあったときに私たちはものすごく助かる。そんな場づくりをもっと意識していくことが、生活困窮者支援には必須だと思います。

面倒臭さの中に大福餅がある

困窮の問題では赤信号の人と黄信号の人がいます。赤信号の人は目立つ人で、専門的な行政の対応が必要です。でも黄信号の人は気付かれにくい。相談窓口にも行かないのだから、地域的な関わりの中での対応が必要となります。IさんとTさんみたいな人がいて、専門職の前では言えないことも気軽に言える。民間の対応と行政の対応、専門職対応というのはセットです。

凸凹をつなぐ地域をどうやったらつくれるのか、それを考えるのが困窮者支援です。それはごちゃごちゃとした多様性と向き合うことなので面倒臭い。でも、そこに喜びと面白みがある。面倒臭さの中にこそ大福餅があるのです。

平成は状態の多様性が進んだ反面、価値感の多様性とのズレが顕著になった時代でした。令和という時代は、2つの多様性が重なり合うように、みんな頑張っていると思っています。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成31年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	1,400万円	
	後遺障害保険金		1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償		上記後遺障害、入院、通院の 各補償金額(保険金額)に同じ		
賠償責任の補償	葬祭費用保険金 (特定感染症)		300万円(限度額)		
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		

年間保険料(1名あたり)

タイプ		プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ			350円	510円
	天災タイプ(*) (基本タイプ+地震・噴火・津波)		500円	710円

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増引適用

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行幸用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJK18-13568 2019.1.16作成)

平成31年度

社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 **施設業務の補償** (賠償責任保険、動産総合保険)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度 死亡時100万円 入院時15~7万円 通院時1~3.5万円
◆クレーム対応サポート補償(プラン1-①オプション4) 改定			

保険期間1年

▶年額保険料(掛金)		定員	基本補償(A型)
補基本 償本 (A型)	付見舞費用 補償(B型)	1~50名	35,000~61,460円
		51~100名	68,270~97,000円
		100名以降1名~10名増ごと	1,500円
		基本補償(A型) 保険料	[見舞費用加算] 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円



スケールメリットを活かした
充実した補償と
割安な保険料
です。

プラン2 **施設利用者の補償**

プラン3 **施設職員の補償** **改定**

プラン4 **社会福祉法人役員等の補償**

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

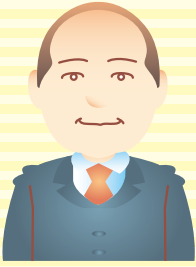
団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

(SJK18-12811 2018.12.28作成)



30代保育士の悩みは「処遇」「家事・育児等との両立」

「保育士就業意向調査」の結果を振り返る

本会では平成29年度から長野県の委託により「長野県保育士人材バンク」を運営し、事業所と求職者とのマッチングに務めています。このような中、本会では長野県の委託により昨年度「保育士就業意向調査」を実施し、長野県に保育士登録した30代の方を対象に、就業状況や就業・復職上の課題等を調べました。

その結果、「処遇」の他、保育士に対する「家事・育児等との両立支援」が課題として明らかになりました。

【調査概要】

調査期間：平成30年12月26日～平成31年1月23日
 調査対象者：長野県に保育士登録のある30代の方（6,890人）
 調査方法：調査用紙を郵送、返信用封筒で回答
 回答数：1,560人（回収率22.6%）

【表】回答者の内訳

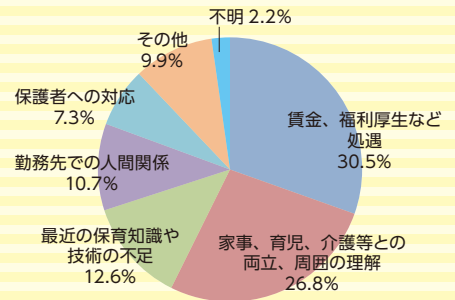
現在保育士として働いている	810人
過去に保育士として働いていた	514人
保育士として働いた経験はない	236人
合計	1,560人

1. 現職保育士について（該当者810名）

「処遇」「家事・育児等との両立、家族等の理解」が悩み（図1）

保育士として働く上で何が一番の課題・悩みか尋ねたところ、「賃金、福利厚生（休暇取得、シフト体制）など処遇」との回答が最も多く30.5%（247人）、次いで「家事、育児、介護等との両立、家族などの周囲の理解」との回答が26.8%（217人）であった。

【図1】保育士として働いている中での一番の課題・悩み



2. 離職した保育士について（該当者514名）

(1)最大の離職理由は「結婚、妊娠、出産、育児、介護」（図2）

離職した一番の理由は「結婚、妊娠、出産、育児、介護のため」が最も多く62.8%（323人）であった。

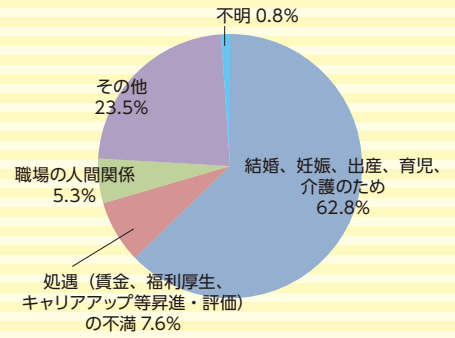
(2)離職者の大半は「今後保育士として働きたい」と考えている（表）

離職中の保育士514人のうち64.8%（333人）が今後の復職を希望する一方「復職予定なし」という人も34.8%（179人）いた。

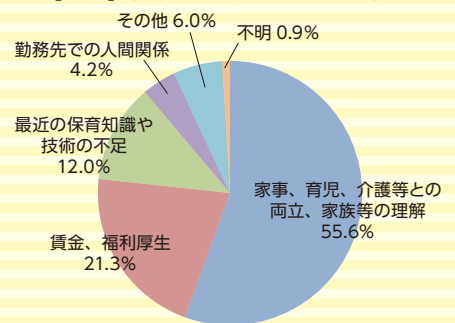
(3)復職時の不安は「家事・育児・介護等との両立、家族などの理解」、復職時に重視することは「処遇」、希望する働き方はパート勤務

- 「今後保育士として働きたい」という人（333人）について、復職を想定した場合
- 一番の不安として「家事、育児、介護等との両立、家族などの理解」を挙げる人が最も多く55.6%（185人）（図3）。
- 一番重視することとして「処遇（給与・休暇・通勤時間等）」を挙げる人が最も多く44.7%（149人）、次いで「通勤時間（シフト体制等）」が29.4%（98人）。
- 「パートタイム（非常勤）」勤務を希望する人が最も多く77.8%（259人）。

【図2】保育士を辞めた一番の理由



【図3】復職する場合の一番の不安



3. 今後の論点と本会の支援策

保育人材確保・定着のために今後検討すべき項目として、休暇やシフト体制も含めた処遇改善を考えることはもちろん、保育士自身が結婚、出産、育児、介護に直面しても安心して働き続けられるよう、周囲の理解・支援も併せて必要であると考えられます。

本会では今後も「長野県保育士人材バンク」の保育士支援専門員や、「信州福祉事業所認証・評価制度（信州ふくにん）」「社会福祉施設アドバイザー相談・派遣等制度」を実施し、保育士の確保・定着に向けた様々なご相談に応じ、求職者の就職支援をはじめ、保育事業所の就業環境・処遇の向上を支援します。





地域の伝説とヒトをつなぐ紙芝居

連絡先 小海おはなし本舗 TEL.0267-92-4537(代表 菊原 修一)

「ここは信濃の國小海の松原湖 バシヤン、バシヤン、ガオー! 現れたのはこの湖の主。小海の伝説『松原湖の竜』のはじまりはじまり〜」



伝説や昔話など、地域それぞれに言い伝えがあり、その地域がどのようにして作られてきたのか、昔の暮らしや知恵、人々の生活が垣間見えてきます。

南佐久郡小海町には、そんな伝説を紙芝居で広く楽しみながら伝え、多世代のつながりを育む「小海おはなし本舗」があります。

代表の菊原修一さんは、長野市のグループに入り、昔話や伝説などを通じてその土地を知り、地域の中で交流が生まれるこの活動に魅了され、のめりこんでいきました。そんな時に、「自分の住む小海町にも多くの昔話があり、これを伝えなければ消えてなくなってしまう。」と気づいた菊原さん。

「自分の思いを実現するにはどうしたら良いのか」と思い悩んでいた時、手を差し伸べて頂いた、長野郷土史研究会、蔵の町すざか昔を語る会、資料の提供や紙芝居の製作にと資金まで出し合ってくれた地元の歴史と文化の会の皆さん、『一緒に来ればいいよ』と誘ってくれた語りの会や、小海町社協等のおかげで、現在は会員13名になりました。『小海町にはこんな伝説や昔話あって、こんな素敵な所で生まれ育ったんだよ』と大人も子どもも伝説、昔話の場所を紙芝居と共に巡るのも良いなと夢を描いています。これからの地域の担い手である小・中学生が、紙芝居を自分たちの手で、ワイワイ言いながら製作、上演をしてくれたら…そんなことを想い、まずは紙芝居の魅力を知ってもらおうと思う今日この頃です。初心を忘れることなく感謝の気持ちを大切に、町の昔話と小海おはなし本舗の活動を将来に繋いでいきたいと夢膨らませる毎日です」と菊原さんは想いを語ります。



地域の伝説は地域を語る一つの大切な宝物。その伝説を伝え、その紙芝居で地域がつながる「小海おはなし本舗」も小海町の宝物としていつか紙芝居になる日が来るかもしれません。

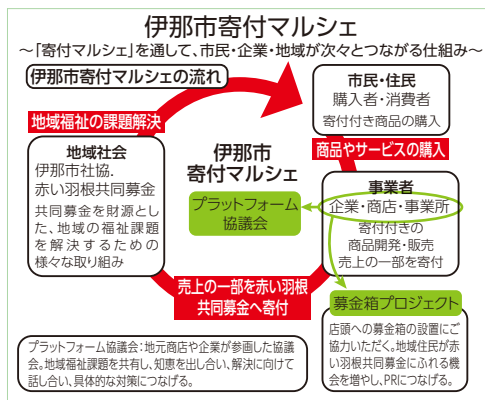


市民・企業・地域が結びつく —伊那市寄付マルシェ—



「年々減少する募金に歯止めをかけたい」そんな思いから、平成28年に伊那市共同募金委員会で赤い羽根共同募金の新たな取り組みとして立ち上げた「伊那市寄付マルシェ」。

市内の商店や企業が寄付つき商品やサービスを開発し販売・提供することによって、その売上金の一部を赤い



羽根共同募金へ寄付するしくみとなっています。現在、伊那市寄付マルシェに参画している企業は9社あり、寄付つきの入浴券や介護用品、エンディングノートなど様々な商品を取り扱っています。企業としては寄付マルシェに参画し寄付つき商品を販売・提供することで、また、地域の方は寄付つき商品を選択して購入することにより地域貢献ができます。また、赤い羽根共同募金の通常の運動期間に限らず年間を通して募金を集められることも、この取り組みの1つのメリットになっています。

まだまだ実績としての寄付金額は大きくはありませんが、寄付マルシェの取り組みの成果もあってか、最近では募金額の減少を抑えることができました。

また、この取り組みにより、市内の商店・企業とのつながりを作らさずかけとなっており、定期的開催されるプラットフォーム協議会は、地域における福祉課題を知っていたく機会にもなっています。寄付つき商品の開発についても、伊那市社会福祉協議会との共同開発となっており、一緒に取り組んでいく姿勢を大切にしています。参画企業からは「商店や企業が地域につながっていければ」といったお声をいただいています。



よっ! 新風人

毎号福祉の現場に新しい
風を吹き込むスタッフをご紹介します。

社会福祉法人 ながのコロニー (長野市)
指定障害者支援施設
ワークサポート篠ノ井
生活支援員主任
青木新吾さん



webでも
ご覧になれます



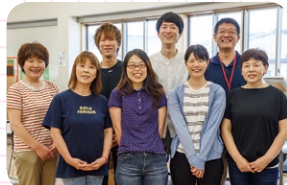
職員同士のいい雰囲気作りが良いサービスにつながっています。



製造から販売まで手掛けるこんにゃく「美味こん」。評判も上々です。



利用者さんの「挑戦」と「できた」の瞬間に立ち会えることが喜びです。



利用者さんの成長と共に支え喜び合えるスタッフのみなさん。

障 障がいのある方が、地域の中で自立した日常生活や社会生活を営めるよう、就労の機会や生活の場を提供する社会福祉法人ながのコロニー。利用者さん一人ひとりに寄り添った支援に尽力する、ワークサポート篠ノ井に入職9年目、生活支援員の青木新吾さんにお聞きしました。

Q 今のお仕事の内容を教えてください。

A 利用者さんの日中活動「仕事」の提供とサポートをしています。一人ひとりの思いや状況を理解して、その方に必要な支援を行います。また、仕事をいただいている業者さんとの調整の他、相談業務も兼務しています。大学の実習でこちらにお世話になり、その頃から入所されている利用者さんには、成長を見守ってもらっています(笑)。

Q 印象的だったことは何ですか。

A 利用者さんが作ったものが社会の中で販売、使用されている場面を目にした時、利用者さんの目の輝きが違ったことです。その後、作業に取り組む姿勢に変化が見られ、社会とのつながりを実感することで自覚が芽生え、やりがいや自信につながるのだと感じました。

Q 大切にしていることは何ですか。

A ひとつの不安や悩みが、自信を失うきっかけとなり生活全体が不安定になることもあるので、こちらでもご家庭でも安定した状態でいられるよう体系的な支援を心掛けています。

Q 福祉の道を目指す人へ一言お願いします。

A 世間的には大変と言われていますし、実際に働いてギャップもありますが、自分が楽しさを見つけ、どれだけ楽しめるかだと思います。興味があれば挑戦して福祉の現場に触れて、楽しさを見つけてください。

「ワークサポート篠ノ井では、利用者さんから「利用してよかった!」と思ってくただけるような支援を心掛けています。気持ちのこもった支援が提供できるよう、これからも青木さんの温かなリーダーシップに期待しています。」と所長の松本さんからの信頼も厚い青木さんです。

続きはQRコードからご覧いただけます。

●ご感想、お問合せ、
掲載希望等は下記へ
お寄せください。

長野県社会福祉協議会
総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244
FAX 026-228-0130
E-mail kikaku@nsyakyo.or.jp

webでもご覧になれます

長野県 福祉・
社会福祉協議会 介護べんり帖



長野県福祉研修
実施団体
きやりあねっと

信州福祉・
介護のひろば



ざわめくアート

『無題』

カラーボールペン

作者:牛越 光瑠(うしこし ひかる) 31歳
飯綱町在住

ある福祉施設にアートワークショップを提供しに向いた時のこと。食堂で利用者さんと一緒に昼食をいただいていたら、ふと隣に座った作者が大事そうに抱えているバッグに何やら素敵な模様が描かれている。ピンクのボールペンでぐるぐると丸のような、そして何かの文字も重ねて書き込まれている。さらに彼は得意そうにバッグから紙の束を取り出して見せてくれた。機関車トーマスや、どこかで覚えた歌の英語の題名や、好きなアニメのキャラクター名などよく読み取れないが書き重ねられている。それらは何度もバッグから取り出されてはさらにペンで書き重ねられ、紙ははたくたになっている。これらは彼にとってはかけがえのない宝物なのだ。こうして彼は自分を表現している。

(ながのアートミーティング 取材)